

日本近代化の礎に迫る

「日本を変えた千の技術博」上野で開幕



10月29日、東京・上野にある国立科学博物館で特別展明治150年記念「日本を変えた千の技術博」のプレス内覧会が行われた。今年で明治の始めから150年を迎え、それを記念してこの展覧会が催された。「千の技術博」では、日本の近代化を支えた600点を超える遺産物を展示しており、重要文化財や化学遺産、機械遺産などのほか飛行機のエンジンや、明治天皇やエジソンにゆかりのある資料も展示されていた。記者に向けた展示解説ツアーでは、3人の監修者が記者に向けて解説をした。



「千の技術博」の製糸場に関する展示物

「自分らしさを加える」

文化庁長官に聞く

「千の技術博」の開会式に出席していた文化庁長官の宮田亮平さんにお話を伺うことができた。金属工芸家として、多くの作品をつくってきた宮田さんは私たち高校生に向けて、「いつも独創的で面白くあるということが大切だ。良い作品を残したり、成果を残したりすることに面白さを見いだすと楽しくなる。」

現代産業の礎

今年明治が始まり、ちょうど150年という記念すべき年だ。明治改元の勅書は、1868年10月23日に出された。その際、明治時代の始まりをその年の1月25日(旧暦1月1日)とした。政治情が安定しない中、政府は制度改革を行った。そして産業の近代化のために鉱山や造船所を国営化、鉄道通信などのインフラ整備を推進。さらに、近代の学校制度と衛生・医療制度の基礎を作った。当初はさまざまな分野で、外国人科学者や技術者の指導を仰いだり、明治中ごろになると、ほとんど

発行所
群馬県立富岡高等学校
群馬県富岡市七日市1425-1
TEL 0274-63-0053
発行人 / 田村浩一
編集 / 新聞部

miniプレス
「千の技術博」
特集号

の現場で日本人が主導的役割を果たせるようになった。



開会式でのテープカットの瞬間

20世紀になり、テレビ、ラジオなどの情報伝達技術が普及し始め、情報を記録する手段やコンピュータの開発、ネットワーク化などにより高度な情報社会へと発展した。人工知能やICTなど高度

な技術が集まった今もお、発展を続けている。「進化の過程を 見られると嬉しい」

日本の近代化と 富岡製糸場

進んであるフラン スとイタリアで蚕の病気が流行して

日本が急成長を遂げた背景には、明治時代の輸出品の第1位であった生糸が関係している。明治時代に日本政府は外国の技術を導入して改良し、様々な業績を上げてきた。新しい技術や機械を国内に入れるためには多くの資本を要する。そこで、生糸をより多く、より良い品質で外国に輸出し、お金を獲得することが国家の使命でもあった。この2つを達成するほかにも当時、生糸の先



解説をする前島正裕さん

は諦めずに自分たちのための努力と技術力是非感じ取って欲しい。高度成長期には、技術による明るい未来と、環境汚染による暗い未来が提示されていた。しかし、昔の人々

国立科学博物館理工学 研究部で今回の展示の総 監修を務めた前島正裕 さんは今回特別展を開催 できたことについて「大 変喜ばしいこと。高校生 などの今の若い子たちに 是非訪れてもらい、今と 昔の違いや技術開発の過 程を見てくれると嬉しい」と語っていた。また、感じ取って欲しいところに

である。未来は予想できないからこそ面白いし、挑戦のしがいもある。若い世代の子も同じように世の中を便利にする発明を目指してほしい」と熱く語った。

「進化の過程を 実感した」

高校生に聞く

今回一緒取材を行った古河中等教育学校の文芸部員は「昔の人が発明した様々な物を見ることができ、歴史を体で感じられ、とても

良い経験になった。現代日本が高い技術を誇っているのは昔の人の多くの努力があったから。身近なものに現在に至るまで進化の過程を見ることができ、改めて「実感した」と今回の感想を語った。また、展示物の中で特

に興味を持ったものは何かという質問には「個人的にボケベルは自分の母親、父親が若い頃に流行ったものだから。また、その当時に使われていた言葉や技術の変化を現在と比較して色々感じられたから」と笑顔で話してくれた。



開会式で挨拶をする宮田亮平さん